

授業科目名	ウィメンズヘルスⅡ <i>Women's Health II</i>			担当教員	永松 美雪
開講年次	2年前期	セメスター	3	時間数(単位数)	30 (2)
必修選択	専攻領域必修	授業形態	講義	使用教室	
授業の目的	性差医学、婦人科疾患、更年期障害、人工妊娠中絶、不妊症など、今日的な女性の健康課題を取り上げ、生涯を通じた女性の健康支援のあり方について探究する。それらを通し、生涯にわたる女性の健康問題に関わる助産師に求められる基礎的能力を習得する。				
到達目標	1. 女性の各ライフステージにみられる健康課題と支援について説明できる 2. 今日的な女性の健康課題に対する支援のあり方について考察できる 3. 女性の健康支援において性差を考慮する重要性について考察できる				
授業計画	1回 性差医学、医療の発展の歴史とその意義 (永松) 2回 男女差が認められる疾患とその特徴 (永松) 3回 更年期女性特有の健康課題とそのケア①：更年期障害 (永松) 4回 更年期女性特有の健康課題とそのケア②：排尿障害、子宮脱など (永松) 5回 更年期女性の健康を支援する助産師の役割 <事例検討> (永松) 6回 更年期女性特有の健康問題とそのケア 加齢に伴う全身の変化、喪失体験と適応 など (永松) 7回 更年期女性の健康を支援する助産師の役割 <事例検討> (永松) 8回 良性の子宮腫瘍性疾患の診断と治療：子宮筋腫 (外部講師) 9回 悪性の腫瘍性疾患の診断と治療：子宮がん、卵巣がん (外部講師) 10回 子宮や卵巣摘出を受ける女性と家族の支援 <討議> (永松) 11回 乳がんの治療を受ける女性と家族の支援 (永松) 12回 子宮がん・乳がん健診技術の演習 (永松) 13回 世界におけるウィメンズヘルスの支援 (永松) 14回 女性の健康支援における課題：各自テーマを設定し発表・討議 (永松) 15回 性差を考慮した女性の健康支援 <討議> (永松)				
学習方法	ウィメンズヘルスⅠおよびその他の助産関連科目における既習知識を前提に、助産師として女性の生涯の健康を支援するとは？について探究していく。十分な事前学習は当然必要であるが、女性の健康を支援する助産師の役割について言語化ができるように学習を積み重ねてほしい。授業は講義と討議、プレゼンテーションの組み合わせで進める。				
オフィス ア ワ ー	金曜日の昼休み、もしくは事前にメール（永松：m-nagamatsu@jrckicn.ac.jp）にてアポイントを取って下さい。				
テキスト	堀内成子 編集：助産診断・技術学Ⅰ，第5版．東京，医学書院，2013． 吉沢豊予子他：助産師基礎教育テキスト 第2巻．日本看護協会出版会，2017．				
参考文献	堂本暁子他：堂本暁子と考える医療革命－性差医療が日本を変える．東京，中央法規出版，2009． 天野恵子：性差医療－性差研究が医療を変える．東京，真興交易医書出版部，2005． 吉沢豊予子編集：女性生涯看護学 リプロダクティブヘルスとジェンダーの視点から．東京，真興交易医書出版部，2004． 井上裕美：病気がみえる Vol.9 婦人科・乳腺外科（第2版）．東京，メディックメディア，2009． 金城清子：生命誕生をめぐるバイオエシックス 生命倫理と法．東京，日本評論社，1998．				
評価方法	授業参加度（10%）、プレゼンテーション（20%）、レポート（20%）、筆記試験（50%）				